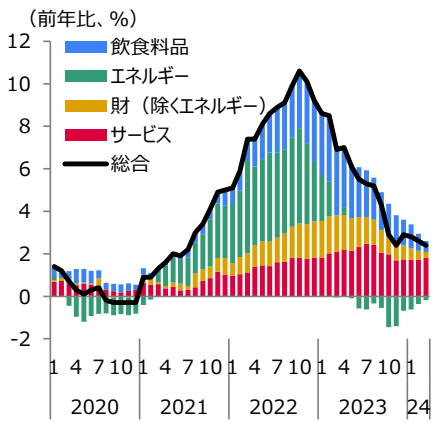
欧州

消費者物価（2024年3月）

物価の伸び鈍化は継続だが、サービス物価上昇の勢いは加速

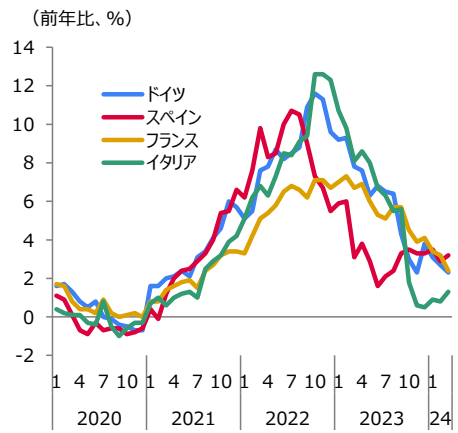
政策・経済センター
綿谷謙吾
03-6858-2717

1 消費者物価（ユーロ圏）



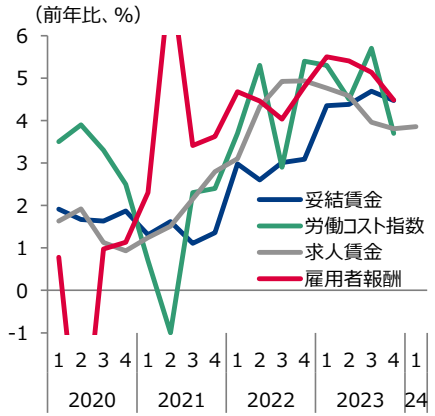
出所：Eurostatより三菱総合研究所作成

2 消費者物価（総合、主要国）



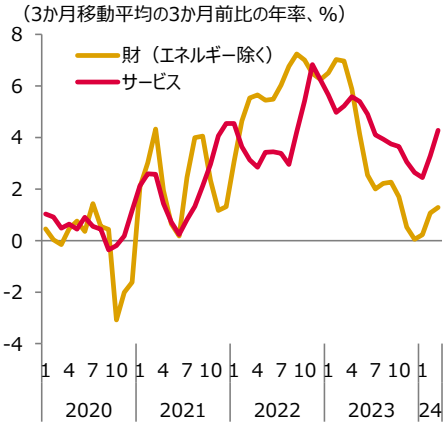
出所：Eurostatより三菱総合研究所作成

3 主要賃金指標（ユーロ圏）



注： 直近は求人賃金のみ24年2月、その他は23年10-12月。
出所：Macrobondより三菱総合研究所作成

4 財・サービス物価（ユーロ圏）



注：3か月移動平均の3か月前比の年率換算値。月次の季節調整値をもとに計算。
出所：Macrobondより三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 24年3月のユーロ圏の消費者物価指数（HICP、速報値）は前年同月比+2.4%と3カ月連続で伸びが鈍化した（図表1）。
- ECBが重視するコア物価は、同+2.9%と約2年ぶりに2%台まで低下。コア物価の伸びが鈍化する傾向が続いている。財（除くエネルギー）価格の伸び鈍化は続いているものの、賃金上昇の影響を受けやすいサービス価格は同+4.0%と高止まりしている。
- 主要国では、フランスの消費者物価（総合）が、21年9月以来に2%台まで低下（図表2）。主要国の物価の伸びは落ち着きつつある。

基調判断と今後の流れ

- ユーロ圏の消費者物価の伸びは、鈍化傾向が続いている。
- 先行きの注目は、コア物価の伸び鈍化が継続するかだ。ユーロ圏の物価上昇はサービス主導となりつつあり、今後のコア物価の伸びは賃金動向が左右する。
- ユーロ圏の主な賃金指標は、依然として高いものの23年末にかけて伸びは鈍化している（図表3）。ただし、先行する求人賃金の伸びは24年に入り高止まりしているほか、ドイツを中心に高めの賃金引き上げ交渉は依然と続いている。24年以降も賃金の伸びが高止まりする可能性は残る。
- ECBが物価上昇の勢い（Inflation momentum)を把握するために活用する指標をみると、24年入り以降サービス価格の伸びが加速している（図表4）。24年1-3月期の賃金上昇を反映している可能性があり、コア物価が2%に近づくには時間を要するだろう。
- ECBは、24年1-3月期の主要賃金指標が確認できる6月の理事会で利下げを検討するとみるが、インフレ再燃への警戒から利下げペースは緩やかなものにとどまるだろう。

Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.